

2018年2月6日

(一社) 日本鉄リサイクル工業会
事務局

2017年の日本の鉄スクラップ輸出について

日本の鉄スクラップ輸出に関し、2017暦年の実績などを下記の通りご報告致します。
添付、過去5年間の「向け先別推移表」「品目別推移表」をご参照ください。

記

輸出総数量：

2017暦年の日本の鉄スクラップ輸出量は約822万トンとなった。
前年比△5.5%であるが、2年連続800万トンを上回り、過去三番目の量となった。
(過去最高：2009年 約940万トン、過去二番目：2016年 約870万トン)

仕向け先別輸出量：

韓国向けの輸出量が回復し、前年比17.9%増の約405万トンとなった。
韓国は2017年全体の49.3%を占め、過去8年連続仕向け先首位となった。
中国向けは二番目の約182万トンだが、殆どはいわゆる雑品スクラップと考えられる。

品目別輸出量：

その他スクラップの中国向けは「雑品スクラップ」が中心と思われるが、ここ数年間数量は漸減している。シュレッダーの輸入コードは2015年より新たに導入されたが、毎年約50万トンが輸出されていることが分かる。切削・打ち抜きスクラップに量的変化はなく、ヘビースクラップは2015年にHSコードでシュレッダースクラップ新設に伴い、その他スクラップの適用見直しを行った結果、ヘビースクラップの通関が増えたことが分かる。

今後の鉄スクラップ輸出：

近い将来、中国と韓国が輸出国に転じ、日本の輸出と競合すると言われている。中国は貴重な資源である鉄スクラップの輸出は国策ではないとしながらも、2017年は約220万トンが東南アジア向け中心に輸出された。(2016年以前の輸出量はほぼゼロ。)

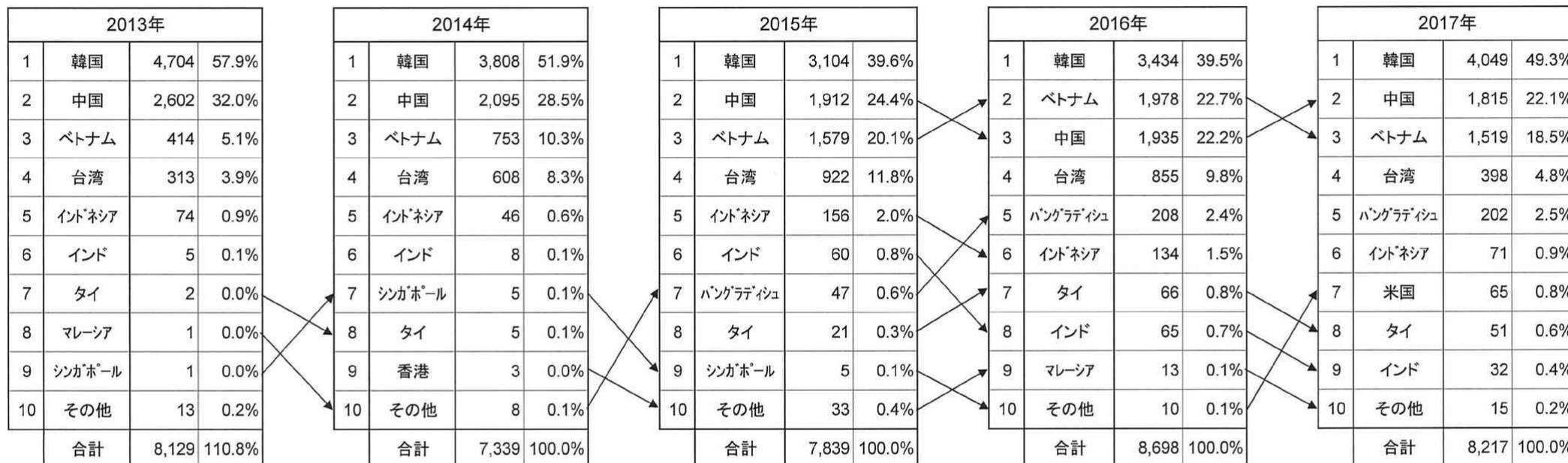
韓国は国内鉄鋼備蓄量の積上げとともに、2025年辺りに輸出国に転ずるとの見方があるが、こちらも輸入量、輸出量が注目される。(韓国の2017年輸出量は62万トンであった。)

将来は日本の仕向け先が西アジアに向けてより遠方化されると予測されている。それに伴い大型船型での輸出が必要となってくるが、国土交通省も港湾整備の検討を始めている。

以上

日本の鉄スクラップ輸出 - 仕向け地別推移

(単位: 1,000トン、%)



出所: 財務省・貿易統計 (HSコード7204の合計)

日本の鉄スクラップ輸出 - 品目別推移

(単位: 1,000トン)

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
輸入HSコード						
720410000	鑄鉄スクラップ	7	5	2	38	8
720421000	ステンレス鋼スクラップ	159	110	190	154	176
720429000	合金鋼スクラップ	24	30	83	29	30
720430000	すずメッキスクラップ	0	0	0	2	5
720441000 切削・打ち抜きスクラップ						
	韓国向け	1,036	933	662	821	937
	ベトナム向け	34	40	171	121	89
	その他向け	43	66	334	305	191
	合計	1,113	1,039	1,167	1,247	1,217
720449100 ヘビースクラップ						
	韓国向け	1,631	1,407	1,584	1,797	2,183
	ベトナム向け	194	391	902	1,493	1,275
	台湾向け	134	212	338	459	190
	中国向け	285	167	182	153	170
	その他向け	1	12	64	176	149
	合計	2,245	2,189	3,070	4,078	3,967
720449200 シュレッダースクラップ ※						
	韓国向け			265	209	266
	ベトナム向け			106	107	73
	その他向け			179	214	145
	合計			550	530	484
720449900 その他スクラップ (中国向けは雑品スクラップ中心か)						
	中国向け	2,262	1,893	1,649	1,730	1,621
	韓国向け	1,929	1,379	470	521	546
	ベトナム向け	185	316	405	256	78
	その他向け	225	378	260	159	85
	合計	4,601	3,966	2,784	2,666	2,330
鉄スクラップ総輸出量		8,129	7,339	7,839	8,698	8,217

(出所: 財務省)

※「シュレッダースクラップ」は2015年より輸出HSコードが始まる。
 それまでは、その多くが「その他スクラップ」に含まれていた模様。